

---

# 七色の涙

パニック

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

七色の涙

### 【Nコード】

N5909M

### 【作者名】

パニツク

### 【あらすじ】

見上 皐月はクラスから冷酷少女と言われている。そんな皐月には皆に言えない秘密があるがー？あの日の記憶探しに一人の少女が立ち向かう！

## 消えた記憶

目を閉じれば見えてくる遠い昔の記憶―

耳をすまぜば聞こえてくるあの時聴いた風の唄―

でもどうしても思い出せない

あの日の記憶が―

く七色の涙く第1話

清々しい朝に小鳥達の歌声

360度どこ見ても山、山、山！

渋滞かと思えば、軽トラが2台止まっているだけ  
こんなド田舎に小さな事件が舞い降りてきた。

おはよう、とクラスのみんなが声を掛けてくる

あ うん

と、素っ気ない返事をするのが私流

3

私は見上<sup>みかみ</sup> 皐月<sup>さつき</sup>。高1、性格はサバサバ、クール、冷酷、真面目、

まあ ざっとこんなもんだろう。クラスのやつに聞けば大抵この結果  
でも、あたしには皆に隠していることがあった！

それは……

「……木下さん、最近肩凝ってない？」

「えっ?! 見上さん、なんで  
わかったの!？」

学年で1番美人の木下ゆりな――

元気があつて積極的で、そして長く美しい髪は誰もが彼女の虜となるだろう

あたしは嫌いだけど

やっぱり・・・

「いや、顔色が良くなさげだったから」

「嘘！？急いでお化粧でカバーしなくちゃ！ありがとね、見上さん」

いや、違ふんすけど

そういつて、木下ゆりなはパタパタと足を急がせながら教室からでていった

なんかうざい

そう思いながら広く澄んだ空を見て呟いた

誰にも言えないこと

それは、あたしにはこの世に存在しないモノが見えるということ・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5909m/>

---

七色の涙

2010年10月9日04時01分発行